

成願寺

季報
111

平成 28 年 12 月 18 日
(2016 年)

目次

「尽大地の人」 山岸弘文	1
秋の観音詣りの報告	6
「観音様の奇跡」 秋原まさ子	8
中野たから幼稚園 お泊まり保育の報告	9
山内短信	12

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十八年 孟蘭盆会 説教

尽大地の人

群馬県泰寧寺住職 元大本山總持寺副監院 山岸弘文

三、四十年前、私は越後・会津・庄内を時々訪れて好天の景観に酔い、また雪の三国峠に大苦勞したり、そして泰寧寺様に寄ってみました。お堀を回らし、雄壮な諸堂配置は正に「砦」。更に向拝より見た襖絵の龍が成願寺の時代物お袈裟の龍とそっくり、仰天しました。その龍画に双ぶ仏画、そして感銘呼ぶ能筆を物にする泰寧寺の方丈様です。

(小林貢人)



群馬県泰寧寺住職
元大本山總持寺副監院
山岸弘文老師

お暑うございます。本日はお盆の法要ということで、みなさまに親しくお話をさせていただくために参りました。私は、新潟県との県境、群馬県みなかみ町にございます泰寧寺というお寺の住職でございます。方丈様とは知己の仲でございますが、ご当山へのお参りは、本日初めてさせていただきました。新宿はすぐそばで、門前は大きな通り。人も車も大変に多いわけですが、一步境内に足を踏み入れましたら、まさに禅の森といった趣で、都会にもこういったお寺があるのだなと感じ入った次第でございます。

みなさま方、ご参拝の際に本堂正面の大きな香炉でお線香を上げると存じます。その香炉堂に十二支の彫り物がございます。それから、この本堂にお祀りされているご本尊様の背後にレリーフ彫りの十六善神が安置されています。

この彫刻をなさった関有雅さんという方。この方はみなかみ町出身の彫刻師で、私ども泰寧寺にも大きな仏像をご寄進いただいております。また、本日

一緒においでになつていますが、経師の林強一さん、この方も同郷でして、同じく成願寺様に古くから伝わる掛け軸の修復を数多く手掛けていらつしやる。そんな繋がりもございまして、本日を楽しみにやつて参りました。

普段から行なう丁寧な生活

さてこれから法要までの間、お話を申し上げたいと存じますが、群馬県の沼田市に丸山宗悦さんという茶人がいらつしやいます。県の裏千家淡交会幹事長をされていたほどの方で、懇意にさせていただいておりますが、ある時、私どものお寺にお弟子さんを連れて出稽古にやつてこられた。その日、私はあいにく所用で出かけておりましたが、帰り支度をされている時にお寺に戻ることができた。

「方丈様がお戻りになられたなら、ぜひもう一度ご本尊様に参拝させていただきたい」ということなので、本堂にご案内し、それから見送りに出て山門までご一緒しました。その時に「方丈様、このお寺にはたくさんのお茶花がございますね」と声をかけられました。

私は茶道は全くの素人でした、茶花といえば椿ぐ

らしいか思いつかない。茶花として扱う花材はなにか特殊な花ではないのかと勝手に思っていたわけだ。五月初旬ごろのことでもございましたが、「ほら、ここにはやまぶき草の花がこんなにたくさんきれいに、向こうには延齡草が、間もなく咲くシヤガも、あつちの杉の向こうには雪笹がある。秋にはおそろく大きな花を咲かせるサラシナショウマもこんなに……」と境内を眺めてはいろいろおつしやるんです。

私は不思議に思いまして、「先生、いまおつしやつた草花は、がさつな言葉で申せば雑草ではないですか。雑草のなかに茶花があるのですか」とお伺いしてみました。そうしましたら、「ええ、ございます。今日一日きれいに咲き誇つて、やがて、明日は一弁二弁と散つて行く。そういう儂い、むなしい草花を私どもではあえて茶花として珍重しているのです」。

そのことをお聞きしまして、お茶というのは、禅の精神を丸ごと背骨にして、いわば禅文化の一つとして展開し、栄えてきたのかと実感として納得できました。茶道の有名な言葉に一期一会というのがございますが、これはつまり諸行無常ということ。

先ほどこのご本堂へ入ってきました際に、本尊様にお焼香をさせていただきました。その先ほどはも

う二度と戻ってこない。その時はその時つきり。これが一期一会ということです。そうした、たつた一度しか巡ってこないなかでの、人様に対するおもてなしの文化、芸術。これが茶道と言えようかと思えます。

ちなみに申しますと、仏様のご供養に五つの品々をお供えします。まずお線香や焼香などのお香。お花。お明かり。浄水。そして飲食、炊きたてのご飯や果物などの食べ物や、香り高いお茶などの飲み物ですね。この五種類がいわゆる供物なんです。そのなかで、香と花と茶には「道」がきます。それぞれ香道、華道、茶道。この日本が誇る文化は、実は仏前に供えるところから生まれたのです。

先ほど、諸行無常ということを申しましたが、そもそも仏教の土台は諸行無常であります。仏教という名の家を建てるというと、そこに用いる土台は諸行無常という用材を使って、そこに柱を立てて出来上がった家が仏教という家です。だから諸行無常という真理の上に出来上がったのが仏教なんです。

みなさま方は日頃からご当山の法要に熱心に参列し、機会あるごとに、和尚さん方から仏教の話をお聞きになってこれたと存じますが、私流に宗教と

はなにかを申しますと、それは、自分で自分をまっすぐにする。それが宗教です。世の中のありとあらゆるものは、まっすぐに基本なんです。襟を正すなんて言葉もございしますが、いくら襟を正したって、身体が曲がっていたらなんの意味もございせん。身体がまっすぐということは心がまっすぐ。ですから禅宗では、坐禅を修行いたします。足を組み、手を組み、背筋をまっすぐに伸ばして、吸って吐いて、この呼吸を一息、一息丁寧に行なう。そうして、普段から坐禅と同じように丁寧な生活をする。これが、宗教であり、仏教であり、禅であるということなのです。

心安らかなところ

ではお寺とはなんなのか。私なりの言葉でお話をさせていただきますと、三宝常住のところであります。まず、仏様、菩薩様、お祖師様、そして檀信徒累代の精霊がお祀りされている。それから、法宝転輪のところ。これは、仏様の教えが、常に、回っているということ。それを回らせるのが、ご住職をはじめとする和尚さん方。そして、檀信徒のみなさまをはじめとする参拝者の誓願と祈りの道場。これが

お寺です。

三宝、つまり仏法僧ですね。仏様がお祀りされ、仏様のみ教え（法）があり、それを指導してください。和尚さんが常にあるところがお寺というわけなのです。言いかえると、仏が祀られ、法が護られ、僧が常在し、檀信徒の信心恢弘につとめ、仏徳を讃え、種智の円を念じ、羅漢の神通力・修行力をいただき、二輪の轉輪を願い、傳燈への感謝、報恩を旨とし、報地を莊嚴し、菩提の円満を祈り、諸縁の吉祥を念ずるところをお寺という。

簡単に申しますと、いつ行っても心が安らかになるところ。安心できるところ。これがお寺ということだと思っています。

もう一つ、お寺が何かを表現する言葉に和敬清寂（わがいせいじやく）がございます。

私たち人間は、十人十色と申しますように、あの人はこういう良いところがある。あの人はこんな面がある。あの人はちよつと変わり者だ、なんて人それぞれに個性というものがございます。そういう異なる個性が和する。和合する。そして、そのことを自分自身が実感できますと、自然に他を敬うようになる。和して敬することができますと、自ずと心が

清々しくなります。清々しくなると、今度は心に寂けさが生じてくる。

煩惱と智慧が和えられ、慈悲の和敬清寂が生じると、それこそが禅の心ということなのです。

朝はじまる家庭での仏教

では次に、みなさまのご家庭、家とはどう考えればよろしいでしょうか。日常の生活のなかでも、家というものをこんなふうに捉えていただけたらありがたいなと思います。それは、人が住み、心が住み、生活が住み、神仏が住まわるを家という。

みなさま方、朝起きられますと、洗面をされ、お湯を沸かして、ご飯も炊けますと、お仏餉（ごはん）を用意されて、お燈明をつけてお線香に火をつけ、香炉の真ん中にまつすぐに立てて、鐘をちんと鳴らす。その鐘の音の響きがなくなるまで、わずかな時間でございますから背骨を伸ばして手を合わせ、仏様、ご先祖様に朝のご挨拶をされる。

前の永平寺の禅師様、宮崎禅師様がよくこんなことをおっしゃっていました。「我が家のお仏壇の本尊様の鼻筋と前に置かれた香炉に立てたその線香と対座するその自分の鼻筋と一直線になるようにまつす

ぐ真ん中に坐れ」。そして、「わずかな時間でも良い。お寺の坐禅会に行ければそれが一番良いのですが、朝、仏様の前に坐わったならば、そこで三分でも五分でも静かに息を整えて坐禅をする。こうしたことを家庭仏教という」と宮崎禅師様はよく言っておられました。

私は、朝のお仏壇へのお詣りを「寂静じやくじやう」という題でまとめてみましたのでご紹介します。

東の空が白んで、あちここに鶏が夜明けを告げ、山里の木々に小鳥が目をさまし、家々に朝がやってくる。洗面して、神棚におあかりをあげ、手を打って朝参り。お湯がわき、御飯が炊きあがり、あつたかい味噌汁が出来あがり、仏壇に灯明と線香があげられ、お茶や水とお仏餉ぶつしやう（ごはん）が供えられ、カネの音が余韻を引く。掌を合わせて我が家の仏達に朝の挨拶をする。それからお茶をのみ、御飯をたべ、学校へ、職場へと一日がはじまる。これが日本人の朝なのだ。

それなのに朝がきても仏壇にローソクの炎ひがともらない家庭なんて、線香の煙がくゆらない家庭なんて淋しいじゃないか。今を生きる私達も、や

がていつの日かまつられる時がやってくるのだ。親である自分が仏を拝まなければ、自分が死んでも子供は親の真似をして、仏壇に掌を合わせないだろう。子供達は親のしていることを、ちゃんと背中で見ているのだ。

悲しみを美しく慰める心、歓よろこびを更に昂たかめ、祝い寿じゆほぐ心遣い、美しくまつる心、美しく莊嚴かざる心、それは寂静の世界からやってくるのだ。その寂し（ずか）なる世界こそ禅の重みでもある。静かなること太古の如し。

毎朝、仏壇に掌を合わせ、静じやうの世界を大事にしよう。

人の重みを知る

実は今日みなさまにお話をさせていただくにあたり、方丈様よりあらかじめ題を教えて欲しいと言われまして、あまりご存知ない言葉かもしれません、が「尽大地の人」とつけました。

少し言葉を変えますと、天地いっぱいの人ということでございます。

私もこれまで何回か人が亡くなる際に側におりましたことがございます。私の連れ合いの母親、私の

義理の母が亡くなりました時の様子を見て綴った文を最後にご披露して終わりにしたいと思います。

「重み 尽大地の人（天地いっぱいの人）」

動く時は軽い。本来軽くはないが、動く時は軽い。動くから軽く見えるのだろう。でも、動かなくなると本当に重くなる。何が重いかというと、人ほど重いものはない。普通の物はどんなに重くも、つり上げたり移動したり出来る。本当に重いのは、人の重みと天地自然の重みである。そして最も重いのは、命の重みである。

その人が生涯を閉じた時、その人は不動の重みとなる。家庭、地域、社会、政治、経済、文化、さまざまな立場で歩々道場の歩みを続けた人が、つまり誰でもが、息を引いたとたんにじわじわと凜とした、言いようのない重みを増してくる。それは自然法爾ほうにの仏の世界に帰るからだ。

この時ほど静かで侵し難い、生々しい命の尊厳そんげんの光を感じさせてくれる時はない。この時ほど人の重みをみせつけてくれる時はない。故人が身を以て示してくれたように、私達もいつの日か重たくなるだろう。大事なことは人の重みがわかる人

になることだ。自然の重み、自然の尊さがわかる人になることだ。自然の重みがわかり、人の命の重みがわかる人は、日頃から心の深い、不動の重みと、和敬清寂、大悲の心を臍下丹田せいかたんでんに抱いている。重みのある人に接すると、いつのまにか自分が大きくなる。臍下丹田に重みをおく。尽大地の人、天地いっぱいの人になろう。

どうかみなさま、世界にたった一人しかない自分です。お釈迦様が唯我独尊とおっしゃった。これは、お釈迦様ただお一人が尊いということではないのです。みなさま方、お一人お一人が唯我独尊なのです。代わりのいない自分です。健康には十分留意して日々を丁寧にお過ごしいただければ幸いです。期間もなくお盆の法要が始まります。本日はご清聴ありがとうございました。

台掌

秋の観音詣りの報告

恒例の秋の観音詣り。今年は十一月九日（水）からの一泊で予科練平和記念館の見学と、二十二年ぶりとなる会津ころり三観音を巡拝しました。

曇天の成願寺に朝七時集合。木枯らし一号が予報



生たちの日々の生活を多角的に窺い知ることができま
す。係の方に
一時間ほどか
けじっくりご
説明をいただ

される寒い朝、観音堂にて旅の無事を祈念し大型バスに乗り込むと、常磐道を一路茨城県阿見町の予科練平和記念館へ向かいます。「予科練」とは、「海軍飛行予科練習生」の略称で、優秀な飛行機の搭乗員を育てるための基礎訓練を行なった制度。昭和五年に始まり、昭和二十年四月までに全国二十一カ所に開かれ、十五年間で約二十四万人が入隊。日本の国の未来を信じた十四歳半から十七歳までの少年たちは、難関と言われた試験を突破し、親元を離れて搭乗員になることを夢見ながら、朝起きてから寝るまで全てが訓練という厳しい生活を送りました。

館内に足を踏み入れると、予科練の制服、七つボタンを意味する七つの展示室「入隊」「訓練」「心情」「飛行」「交流」「窮迫」「特攻」からなっていて、練習

きました（写真上）。また、隣接の陸上自衛隊土浦駐屯地内にある予科練記念館「雄翔館」も併せて見学。予科練出身者の遺書、遺品等が多数展示されています。国のため、家族のために殉じた若者たち一人一人のパネルが、最後の戦闘の様子を伝えていました。

お昼をはさみ、福島県塙町の木の博物館へ。いまでは大変稀少になった樹齢数百年の国産の落葉広葉樹種の木材が所狭しと展示されています（写真下）。六つの展示室を巡り、他ではなかなか見られないという、貴重な本目に国産百分の漆が施された木工藝品など多数見学させていただきました。

バスは今宵の宿、明治十三年創業の老舗旅館母畑温泉八幡屋へ。ラジウム含有量東北一という八幡太郎義家ゆかりの温泉と、旬の食材をふんだんに用いた美しい料理で、旅の疲れを癒しました。

翌朝は八時出発。最初に訪れたのは、会津美里町の中田観音弘安寺。鎌倉時代この地にあった長者の娘が十七歳の若さで天逝。その供養のため娘の姿に似せた十一面観音、脇侍の地藏菩薩、不動明王の三体をお祀りしたのが始まりで、観音様より「我と思ひ柱に抱きつき、丈夫で働き、死病の床にいた時は長患いをせぬよう三日、五日、一週間、長くて十

日と念願せよ」とお告げがあったといえます。以来、観音様に直接触れることができなくても、みな傍らにある柱に抱きつき、願いを込めるのです。

普段は立派なお厨子の中に安置され秘仏となつて
いるそうですが、なんと今日までご開帳とのこと。
ありがたい思いでお経を上げ、ご住職大澤一元老師
よりお話と我々一行の家内安全などご祈禱をいただ
きました。最後に観音様の目前まで進み参拝。本堂
前で記念撮影(写真上)をしてバスに乗り込みました。
続いて会津坂下町の立木千手観音恵隆寺へ。こち
らの観音様は立木の千手観音様で身の丈二丈八尺
(八・五メートル)。お姿を隠す帳が下りていて、その
前でお経を上げると(写真中)、ご住職の藤田恵盛師
にお話をいただきました。その後、帳の奥の観音様



に直接お詣りできるよう誘導してください、風神雷神をはじめとする二十八部衆を従えた堂々たるお姿を拝することができました。

最後は西会津の鳥追観音如法寺。仁王門前の見事な紅葉に目を奪われます。こちらの観音様は行基菩薩が会津巡錫の際、自らの念持仏をこの地の貧しい農夫に授けたことに始まります。爾来、一家のもとで、自ら鳴子の綱を引き鳥や獣を追ったといえます。観音様の導きにより、やがて一家は幸福な人生を全うして西方浄土に旅立ったのです。このことから鳥追観音と尊称され、古くより人々の信仰を集めています。副住職の三留光善師よりお話とご祈禱をいただき、バスは東京への帰路へ着きました。 了

観音様の奇跡

萩原まさ子

年に一度の待ちに待ったお寺の旅行。いつもの仲間と参加の約束をしていました。ところが前日の健康診断で風邪をひき込み、三十八度の熱、とても旅行に行ける状態ではありません。

お医者様に「明日はどうしても行きたい所があるのでなんとかしてください」と手を合わせました。私の必死の頼みに押され、点滴を二本。ふらつきな

がら家に帰り、そのまま寝つき、当日の朝を迎えました。解熱剤を飲み、成願寺へと向かいました。みんなに迷惑をかけないで帰ってくるだけ、その一心でバスに乗り込みました。

こんな出発でしたが、最初の目的地「予科練平和記念館」…。私は昭和二十八年生まれで戦争を知らない世代ですが、どのブースも胸が熱くなり涙が溢れて止まりません。子を持つ親として、自分の子供を国に差し出すなど、非国民と言われてもとてもできるものではありません。十代の若さで遺書をしたため、母より先に死んでいく者の心はあまりに痛ましくて、推し量ることもできませんでした。

昼食の時に住職様から、気持ち切り替えるようにとお言葉があり、救われました。

さて、お宿の母畑温泉八幡屋。温泉好きな私ですが、今回は次の日無事にと就寝前の一回のみ。それでも湯量豊富ですすべの泉質に大満足。無理して来た甲斐がありました。

二日目も天気恵まれ、紅葉のなか、三力所の寺へお詣りをさせていただきました。最初の中田観音様ではいつもより力を込めてお経を読み、平和の時代を生きていることに改めて感謝しました。

最後の鳥追観音様では、お経の前のお話が楽しくて笑わせてくださいましたが、少し長く、途中退席してしまいました。

体調は決して万全ではありませんでしたが、二日間、熱も治まり心が洗われる旅になりました。合掌

中野たから幼稚園 お泊まり保育の報告

毎年夏の恒例行事の一つ、年長組二クラスのお泊り保育が七月十九日（火）の終業式終了後十一時より行なわれました。子どもたちにとって、親元から離れて一泊を過ごすということ自体、初めての経験になる子がほとんどです。この経験を通じ、「クラスや友達とのつながりを深め、自信を持つて生活できるようにする」「生活の流れを意識し自分で考え行動する」「みんなで協力して活動することを楽しむ」を目標にしました。

一学期の修了式を終えると子どもたちはまずは体操服に着替え、お家の方と一緒に用意をした「お風呂セット」と「朝セット」を準備。八グループに分かれると、最初の予定、園外保育を行なう落合公園に向けて出発です。お友達と手を繋いで、中野坂上駅へ。駅員さんに誘導していただき、長いエスカレー



大江戸線・中野坂上駅のホーム



うれしいお弁当タイム



元氣いっぱい遊ぶ子どもたち



包丁持ったら猫の手

ジャムと生クリームが登場。リッツが配られると、各々好みのように盛りつけをしました。バナナと生クリームの組み合わせはとても美味しい、でも梅ジャムはもっと美味し

きを手にして、子どもたちに吹きかけて熱中症対策を行ないました。特にローラー滑り台は、さながらミニスプラッシュマウンテンのようで、滑ってくる子どもたちから「キヤー!」と大きな歓声が上がりました。たつぷり遊んだあとは、クラス毎に記念撮影。帰りのエネルギー源にあめ玉を一つ口に入れ、園への帰路に着きました。

公園に着くと、グループ毎に好きな場所を選び、お楽しみのお弁当タイム。持参したシートを自分で敷き、お家で持たせてくれたお弁当を広げて、おいしくいただきました。お弁当のあとは遊具遊びです。ターザンロープやゆらゆらボール渡り、クライミンググウォール、回転遊具、ローラー滑り台、コンビネーション遊具と幼稚園とはまた違う珍しい遊具がたくさんあって、蟬の賑やかな鳴き声に負けない元気さで夢中になって遊びました。水分補給や虫除けに注意を配る事は当然までも、先生方は一人一本の霧吹

きを手にして、子どもたちに吹きかけて熱中症対策を行ないました。特にローラー滑り台は、さながらミニスプラッシュマウンテンのようで、滑ってくる子どもたちから「キヤー!」と大きな歓声が上がりました。たつぷり遊んだあとは、クラス毎に記念撮影。帰りのエネルギー源にあめ玉を一つ口に入れ、園への帰路に着きました。

園に戻ると手洗いうがい、水分補給を済ませ、エプロンと三角巾を身につけます。これから次のお楽しみ、おやつタイムです。グループ毎に分かれて座ると、先生がバナナと包丁、トレーを持ってきてくださいます。一人一人、バナナを程よい大きさに切る体験をしました。そこに、お寺の梅で梅ジュースを作った残りの果肉部分を、更に煮詰めて作った梅ジャムと生クリームが登場。リッツが配られると、各々好みのように盛りつけをしました。バナナと生クリームの組み合わせはとても美味しい、でも梅ジャムはもっと美味し

くて、ペロリといただきました。

ごちそうさまの後は、お風呂タイムです。何組かに分かれて、隣接するお寺の北寮のお風呂で順番に汗を流しました。

お風呂を終えると、先生に絵本を読んでいただき小休止。すると外は突然の雨で、予定されている花火ができるか心配でした。子どもたちは雨が上がることを祈りながら、協力して夕ご飯に向けて準備をし、みんな大好きなカレーライスをいただきました。

年少の先生方からのお楽しみ、ペープサート（紙人形劇）を見ている間に雨はやんで、きつと子どもたちの祈りが通じたのでしょうか、無事に花火をすることができました。家庭ではなかなかできない大きな花火やナイヤガラなどもあり、歓声が上がりました。



一人一人カレーをいただきに



園庭で花火大会



パジャマに着替えて記念撮影



おやすみなさい。良い夢を…

た。それから、夜の園内探検へ。昼間とは違う園内の雰囲気子どもたちはちよつときどき。でも屋上に出ると、綺麗なお月様と夜景を見る事ができ、夜ならではの風景でした。

歯磨きを済ませてパジャマに着替え、お布団の部屋に行くと、園長先生からのお楽しみ。歌や手遊びで盛り上がったあと、就寝の時間を迎えました。

明くる日は朝五時半起床。着替えや洗面を行ない、園庭へ。お寺へ移動すると境内でラジオ体操をしました。その後、本堂にて主事先生の指導で坐禅を行ない心を落ち着けると、お泊まり保育を過ごさせていただいたお礼の気持ちを込めて、のの様にお焼香をしました。園に戻り朝ご飯をいただき、荷物整理をして帰りの会へ。この二日間を振り返り、子どもたちは達成

感や満足感を得て、一回り成長したようです。先生方へのお礼の言葉を述べると、迎えに来た保護者の元へ。楽しかったこと、嬉しかったことを口々に報告していました。（編集部）

山内短信

◎除夜の鐘・新年祈禱会（百七組予約受付・一撞き千円）

大晦日夜十一時半来会者一同で読経―撞き出し―
平成二十九年元旦零時半新年祈禱―年賀祝杯

*除夜の鐘の前にお焚きあげをします。本年中の護符などをお持ち下さい。*乾杯の干支杯はお持ち帰り下さい。

*干支にちなんだ絵馬をおわけします。絵馬に描かれる干支の絵は滋賀県東円寺住職藤木道明老師によるものです。

◎大般若祈禱会のお知らせ

平成二十九年一月八日（日）、午後一時より大般若祈禱会を開き、家内安全・身体健全・商売繁盛等を祈念します。どなたでも（檀家以外の方も）祈禱を受け付けます。願文を添えてお申し込みください。

◎年始めの会（初観音）のお知らせ

平成二十九年一月十八日（水）午後二時より、新年初の観音様の縁日大祭（祈禱会）を行ないます。願文を添えてお申し込みください。ご祈禱後はお汁粉で懇親会です。会費 千五百円

◎「防火のつどい」において感謝状をいただく

去る十一月十五日（火）、中野消防署主催「防火のつどい」が中野サンプラザに於いて開催されました。



た。毎年一月二十六日の文化財保護デーの際、境内にて中野消防署、消防団、東郷町会、成願寺自衛消防隊の合同で、大規模な防火演習が行なわれています。また、それから第六天堂隣りに地下消防用貯水槽を設け、地域の災害に備えました。（中野消防署管理）。それらの功労が認められ、「防火防災思想の普及功労」の部で中野消防署長より感謝状をいただきました。

◎中野区役所新任研修一行が来山

去る十月十八日（火）から三日間に亘り、四月より中野区に奉職した新任職員一行のべ九十一名が「防空壕の見学を通して平和行政の重要性を学ぶ



こと」を目的に來山しました。「区内ウオーク」として区内の名所、旧跡などを視察。防空壕の見学のあと住職より挨拶がありました。